

CF2
3
07

共十六卷

東京圖書館	
新門	一四一
部	一一
類	四九八九號

官制
民
法
七

明治三十年未刊行

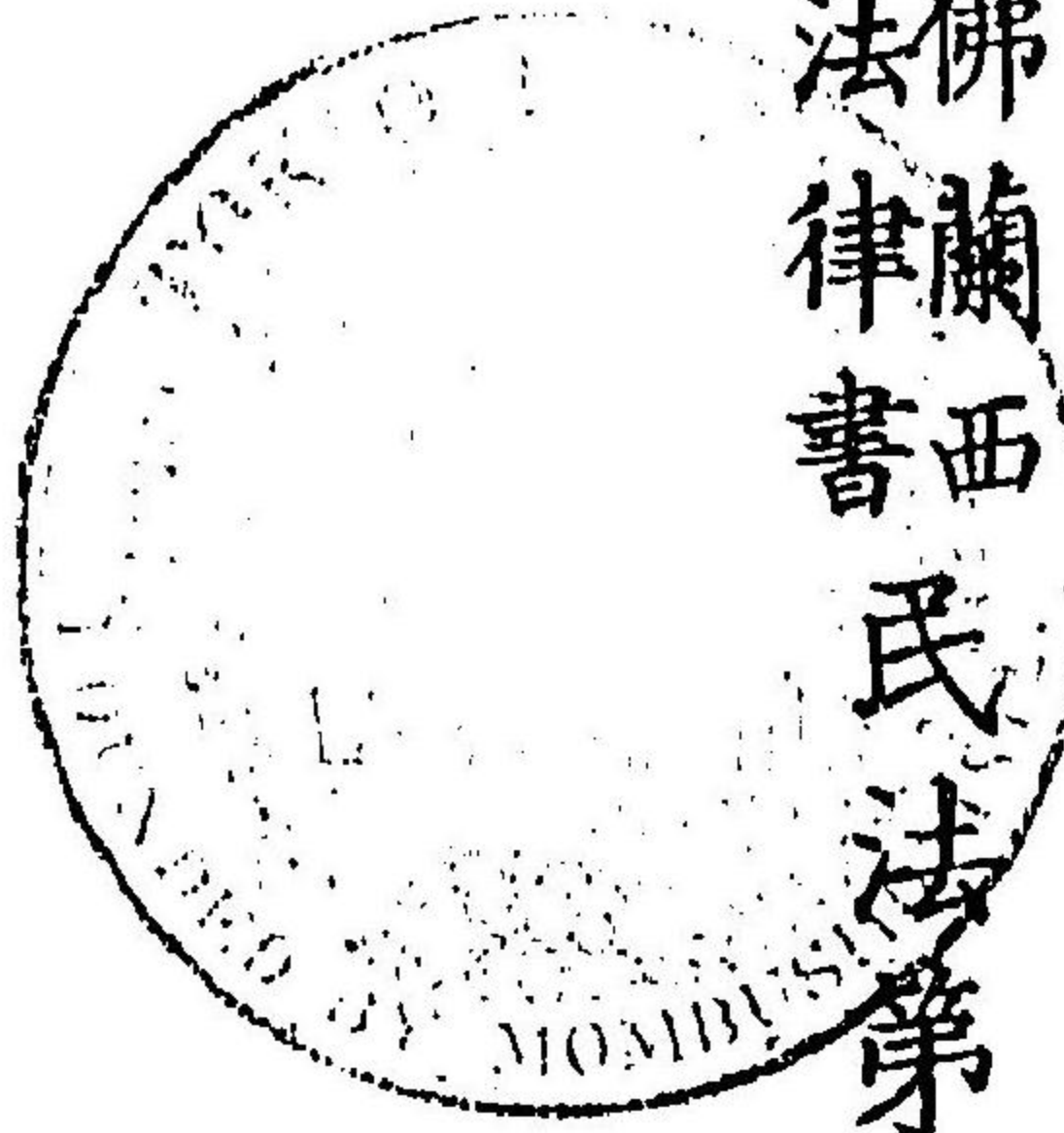
文部少博士箕作麟祥口譯
引士草筆受

仙蘭西 法律書 民法

文部省

CF2
3
07

佛蘭西民法第七



明治九年文部省發行

文部少博士箕作麟祥口譯

○第三款 遺囑贈遺ノ證書ノ種類

第一千二條 遺囑贈遺ノ證書ハ遺囑者ノ財産ノ

全部ニ關係シ又ハ其財産中ノ別段指定メサ

ル一部ニ管係シ又ハ其財産中ノ別段指定メ

タル品物ニ管係ス

遺囑贈遺ノ證書ハ如何ナル名義ヲ以テ之ヲ

佛蘭西民法七

第三篇第三章第五節第一款第一

文部省

CF2
3
07

東京法律書局

東京法律書局



佛蘭西法律書
民法第七

文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付

○第三款 遺囑贈遺ノ證書ノ種類
條 遺囑贈遺ノ證書ハ遺囑者ノ財産ノ
ニ關係シ又ハ其財産中ノ別段指定メサ
ル一部ニ管係シ又ハ其財産中ノ別段指定メ
タル品物ニ管係ス

遺囑贈遺ノ證書ハ如何ナル名義ヲ以テ之ヲ

佛蘭西民法

第三篇第三章第五節第三款第一

文部省

明治九年刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

文部省

佛蘭西

法律書

民法

文部省

為シタルヲ問ハス遺囑者財産ノ全部ノ贈遺
其財産中ノ別段指定メサル一部ノ贈遺其財
産中ノ別段指定メタル物品ノ贈遺ニ付キ後
ニ記載スル規則ニ循ヒ其効ヲ生ス可シ

○第四款 財産全部ノ遺囑贈遺ノ證
書

第一千三條 財産全部ノ遺囑贈遺ノ證書トハ遺
囑者ノ死去スル時其遺留スル財産ノ全部ヲ
一人又ハ數人ニ贈與スル遺囑ノ證書ヲ云フ
第一千四條 遺囑者死去ノ時法律上ニテ必ス其

財産ノ一部ヲ得可キ相續人アル時ハ其相續
人遺囑者ノ死去ニ因リ其財産ノ全部ヲ皆自
己ニ收受ス可シ但シ遺囑者ノ財産全部ノ贈
遺ヲ受ク可キ者ハ其相續人ヨリ遺囑贈遺ノ
財産ノ引渡ヲ得ント訴フ可シ

第一千五條 此場合ニ於テ財産全部ノ遺囑ノ贈
遺ヲ受ク可キ者遺囑者ノ死去セシヨリ一年
内ニ相續人ヨリ其財産ノ引渡ヲ得ント訴フ
ル時ハ遺囑者死去ノ日ヨリ以來ノ其財産ノ
利益ヲ所得ト為スヲ得可シ若シ然サレハ

其引渡ヲ訴ヘタル日又ハ遺物相續人其財産
ヲ其贈遺ヲ受ク可キ者ニ引渡スルヲ承諾シ
タル日ヨリ以來ノ入額ヲ所得ト為スルヲ得
可シ

第一千六條 遺囑者ノ死去レタル時法律上ニテ
必ス其財産ノ一部ヲ得可キ遺物相續人アラ
サル時ハ其財産全部ノ贈遺ヲ受ク可キ者遺
囑者ノ死去ニ因リ即時ニ其財産ヲ所有ト為
ス可キノ權アリ

第一千七條 遺囑者自筆ノ遺囑贈遺ノ證書ハ其

書中ニ記載シタル如ク執行ノ前ニ其遺物相
續ヲ為ス地ヲ管轄スル下等裁判所ノ上席人
ニ之ヲ差出ス可シ○此贈遺ノ證書ニ封印ア
ラハ其上席人之ヲ開封シ且ツ其證書ヲ差出
シタルト及ヒ開封シタル事ト遺囑贈遺ノ摸
樣トヲ調書ニ記シ其證書ヲ裁判所上席人ノ
別段定メタル「ノテール」ニ預ク可シ
又秘密ノ遺囑贈遺ノ證書ハ之ヲ裁判所ノ上
席人ニ差出シ其上席人開封ヲ為シ且其差出
シタル事及ヒ開封ノ事ト遺囑贈遺ノ模様ト

ヲ調書ニ記シ「ノテール」ニ預クル事ハ前ニ記
スル所ト同一タル可シ但シ其開封ハ其證書
ノ表書ヲ記シタル「ノテール」ト姓名ヲ記シタ
ル證人トノ面前ニ非レハ之ヲ為ス可カラズ
若シ又其「ノテール」又ハ證人其場ニ在サル時
ハ之ヲ呼出シテ出席シタル上又ハ呼出シテ
猶出席セサル上ニテ開封ス可シ

第千八條 第千六條ニ記シタル場合ニ於テ遺
囑者自筆ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ秘密ノ證書
アル時其財産全部ノ贈遺ヲ受クル者其財産

ヲ已ニ收受セント欲スルニハ此等ノ證書ヲ
「ノテール」ニ預ケタル旨ヲ記セシ書面ヲ添ヘ
テ其願書ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シ上席人
ヨリ其允許ノ言渡ヲ得タル上其言渡ノ旨ヲ
願書ニ附記シ之ヲ證トシテ其財産ヲ收受ス
ルヲ得可シ

第千九條 遺囑者ノ財産全部ノ贈遺ヲ受クル
者法律上ニテ必ス遺囑者ノ財産ノ一部ヲ得
可キ遺物相續人ト共ニ其財産ヲ分ツ時ハ其
已ニ得タル財産ノ割合ヲ以テ遺物ニ付テノ

負債ヲ擔當シ又其得タル不動産ノイボテ一ク
 ノ負債ハ一身ニ之ヲ擔當シ且他ニ遺囑ノ贈
 遺ヲ受ク可キ者アラハ其者ニ其贈遺ノ財産
 ヲ渡ス可シ但シ第九百二十六條及ヒ第九百
 二十七條ニ記スル如ク減少ス可キ贈遺ノ財
 産ハ之ヲ渡スニ及ハス

○第五款 財産中ノ別段指定メサル
 一部ノ遺囑贈遺ノ證書

第一千十條 財産中ノ別段指定メサル一部ノ遺
 囑贈遺ノ證書トハ遺囑者其財産ノ半ハ又ハ

三分ノ一又ハ其不動産ノ全部又ハ其動産ノ
 全部又ハ其不動産及ハ動産ノ一部等ノ如ク
 總テ法律上ニテ贈遺ト為スヲ得可キ財産
 定分ノ一部ヲ贈遺スル證書ヲ云フ

其他ノ遺囑贈遺ノ證書ハ皆財産中ノ別段指
 定メタル品物ノ贈遺ノ證書ナリトス

第一千十一條 財産中ノ別段指定メタル一部ノ
 遺囑贈遺ヲ受クル者ハ法律上ニテ必ス其財
 産ノ一部ヲ得可キ遺物相續人ニ已レ得可キ
 財産ノ引渡ヲ求ム可シ若シ其相續人アラサ

ル時ハ其財産全部ノ贈遺ヲ受クル者ニ其引渡ヲ求ム可シ若シ又其全部ノ贈遺ヲ受クル者アラサル時ハ此篇ノ第一卷遺物相續ニ定メタル順序第七百三十一條以下見合テ以テ遺物相續ヲ為ス可キ者ニ其引渡ヲ求ム可シ

第一千十二條 財産中ノ別段指定メサル一部ノ遺囑贈遺ヲ受クル者ハ其全部ヲ受クル者ノ如ク其己ニ得タル財産ノ割合ヲ以テ遺物ニ付テノ負債ヲ擔當シ又其得タル不動産「イポテーク」ノ負債ハ一身ニ之ヲ擔當ス可シ

第一千十三條 遺囑者其財産中ノ別段指定メサル一部ノ遺囑贈遺ノ名義ヲ以テ其贈遺ト為スヲ得可キ財産定分ノ一部ヲ贈與シタル時ハ其贈遺ヲ受クル者當然ノ遺物相續人ト共ニ其得タル財産ノ割合ヲ以テ遺囑者財産中ノ別段指定メタル品物ノ贈遺ヲ受ク可キ者ニ其品物ヲ引渡スヲ擔當ス可シ

○第六款 遺囑者財産中ノ別段指定メタル品物ノ贈遺

第一千十四條 凡ソ別段ノ約束ナキ遺囑ノ贈遺

アル時ハ其贈遺ヲ受クル者遺囑者ノ死去セ
 シ日ヨリ其贈遺ノ財産ヲ所有スルノ權アリ
 但シ此權ハ贈遺ヲ受クル者ノ遺物相續人及
 ヒ其代權者ニ之ヲ傳フルトヲ得可シ
 然レ遺囑者ノ財産中ニテ別段指定メタル品
 物ノミノ贈遺ヲ受クル者ハ第千十一條ニ定
 メタル順序ニ從ヒ己レノ得可キ財産ノ引渡ヲ
 訴ヘタル日又ハ其財産ヲ引渡ス可キ者ノ意
 ヲ以テ之ヲ引渡ストヲ承諾シタル日ヨリ後
 ニ非レハ其贈遺トシテ受ケタル財産又ハ權

利ヲ己ニ收受スルトヲ得ス且其財産又ハ權
 利ヨリ生スル利益ヲ得ント求ムルトヲ得ス
 第千十五條 然レ左ノ場合ニ於テハ遺囑ノ贈
 遺ヲ受クル者別ニ訴ヲ為サスレテ遺囑者死
 去ノ日ヨリ其得可キ財産又ハ權利ヨリ生ス
 ル利益ヲ所得ト為ストヲ得可シ

第一 遺囑者其遺囑書中ニ別段其意ヲ
 記入シタル時

第二 畢生間ノ年金ヲ得可キ權ヲ養料
 ノ名義ヲ以テ遺囑ノ贈遺ト為シタル

時

第一千十六條 遺囑ノ贈遺ヲ受クル者其贈遺ノ
 財産ノ引渡ヲ訴フル費用ハ遺物相續人ノ相
 續ス可キ遺物中ヨリ之ヲ差引可シ然レ法律
 上ニテ必ス遺物ノ一部ヲ受ク可キ者ノ為メ
 遺シ置キタル財産ノ一部ヲ是カ為メ減スル
 一ヲ得ス
 遺囑贈遺ノ財産引渡ヲ官署ノ簿冊ニ登記ス
 ル費用ハ其贈遺ヲ受クル者之ヲ拂フ可シ
 然レ遺囑贈遺ノ證書中ニ別段ノ約定アル時

ハ前項ト異ナリトス
 數人ニ為シタル遺囑ノ贈遺ハ各箇ニ之ヲ官
 署ノ簿冊ニ登記ス可シ但シ之ヲ登記シタル
 一ハ其登記ヲ為シタル贈遺ヲ受クル者及ヒ
 其代權者ノ為メ其効アル可ク其他ノ贈遺ヲ
 受クル者ノ為メ利益ヲ生スル一ナカル可シ
 第一千十七條 遺囑者ノ遺物相續人又ハ其他遺
 囑者財産中ノ別段指定メタル品物ノ贈遺ヲ
 引渡ス可キ者ハ各其得タル財産ノ割合ヲ以
 テ動産ノ贈物ヲ引渡ス一ヲ擔當ス可シ

又不動産ノ贈物ヲ引渡スニ付テハ遺物相續
 人又ハ其他遺囑ノ財産ヲ引渡ス可キ者其所
 得ト為シタル不動産ノ價ニ至ル迄之ヲイホ
 テークト為シタルト看做シ其不動産引渡ヲ
 一身ニ擔當ス可シ第八百七十
 三條見合セ
 第千十八條 遺囑贈遺ノ財産ハ遺囑者ノ死去
 セシ時ノ模様ノ儘其必要ナル附從物ト共ニ
 之ヲ引渡ス可シ

第千十九條 不動産所有ノ權ヲ遺囑ノ贈遺ト
 為ス證書ヲ記シタル者後ニ其不動産ノ大サ

ヲ増加シタル時圍ノ別ナハ其増加シタル不
 動産以前ノ不動産ト相接シタル時ト雖モ之
 ヲ其遺囑贈遺中ノ一部ナリト看做ス可カラ
 ス但シ其増加シタル部分ヲモ亦贈與ス可キ
 旨ヲ記シタル贈遺ノ證書アル時ハ格別ナリ
 トス

又遺囑ノ贈遺ト為セシ不動産ニ添フタル装
 飾物又ハ新ニ為シタル造營又ハ遺囑者新ニ
 圍ヒ入タル不動産ハ前項ト異ナリテ其遺囑
 贈遺中ノ一部ナリト看做ス可シ

第一千二十條 若シ遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル前
 又ハ其後其遺囑者贈遺ト為ス可キ不動産ヲ
 自己ノ負債ノ質ト為シタル時又ハ其不動産ヲ
 他人ノ負債ノ質ト為シタル時又ハ他人ニ
 其不動産ノ入額所得ノ權ヲ與ヘタル時ハ後
 ニ其不動産ヲ贈遺ヲ受クル者ニ引渡ス可キ
 相續人又ハ其他ノ者其質ヲ受戻スニ及ハス
 又入額所得ノ權ヲ取戻スニ及ハス其儘之ヲ
 引渡スヲ得可シ但シ遺囑者其質ノ受戻シ又
 ハ入額所得ノ權ノ取戻シヲ為ス可キヲ別

段其遺囑贈遺ノ證書ニ記シタル時ハ格別ナ
 リトス 第八百七十
 四條見合セ

第一千二十一條 若シ遺囑者他人ニ屬スル財産
 ヲ贈遺ト為シタル時ハ其遺囑者其財産ノ己
 ニ屬セサルヲ知リタルト否トヲ問ハス其贈
 遺ノ効ナカル可シ

第一千二十二條 遺囑者其贈遺ト為ス財産ノ種
 類ヲ定メ其品物ヲ定メサル時ハ其遺物相續
 人其遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ニ最モ良好ノ質
 有ル財産ヲ渡スニ及ハス又最モ鹿惡ノ質有

ル財産ヲ渡ス可カラス

第一千二十三條 債主ニ與フル遺囑ノ贈遺ハ負

債ノ償ナリト看做ス可カラス又僕婢ニ與フ

ル遺囑ノ贈遺ハ俸金ノ償ナリト看做ス可カ

ラス

第一千二十四條 遺囑者ノ財産中ニテ別段指定

メタル品物ノ贈遺ヲ受クル者ハ遺囑者ノ負

債ヲ拂フニ及ハス但シ其贈遺トシテ得タル

不動産ニ付キイポテクノ權アル債主ヨリ

遺囑者ノ債ヲ拂フ可キノ訴ヲ受ケタル時ハ

之ヲ拂フ可シ第四百七十七條又其贈遺ヲ受ケタ

ル者ハ前第九百二十六條ニ記シタル如ク其時ノ模

様ニ因リ其贈遺ノ財産ヲ減セラル、トアル

可シ

○第七款 遺囑者ノ托ヲ受ケ遺囑ノ

諸事ヲ管理スル者

第一千二十五條 遺囑者ハ其遺囑ノ諸事ヲ管理

スル者一人又ハ數人ヲ任スルヲ得可シ

第一千二十六條 遺囑者ハ其遺囑ノ諸事ヲ管理

スル者ニ己ノ動産ノ全部又ハ一部ヲ委托ス

ル事ヲ得可シ然レ其委托ハ其遺囑者ノ死去
セシ時ヨリ一年有一日ノ時間ニ過ク可カラ
ス

遺囑ノ諸事ヲ管理スル者其委托ヲ受ケサル
時ハ之ヲ受ケント訴フ可カラス

第一千二十七條 遺物相續人死者ノ遺囑贈遺ノ
動産ヲ贈遺ヲ受クル者ニ渡ス可キヲ證ス
ル為メ十分ナル金高ヲ其管理者ニ預ケタル
時又ハ既ニ自カラ其遺囑贈遺ノ動産ヲ贈遺
ヲ受クル者ニ渡シタルヲ證スル時ハ其管

理者嘗テ遺囑者ヨリ委托ヲ受ケシ動産ヲ遺
物相續人取戻スヲ得可シ

第一千二十八條 契約ヲ為スト能ハサル者ハ遺
囑ノ管理者トナルヲ得ス

第一千二十九條 婚姻シタル婦ハ其夫ノ許諾ヲ
得ルニ非レハ遺囑管理ノ任ヲ受クルヲ得
ス

若シ婚姻ノ契約又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ婦
其夫ト財産ヲ分チタル時ハ其婦其夫ノ許諾
ヲ得テ遺囑管理ノ任ヲ受ケ又夫ノ之ヲ許諾

セサル時ハ第二百十七條及ヒ第二百十九條ノ婚姻ニ記スル所ニ循ヒ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニテ其任ヲ受クルヲ得可シ

第一千三十條 幼者ハ後見人又ハ「キヲトール」ノ許諾ヲ得ルト雖ヒ遺囑管理ノ任ヲ受ク可カラス

第一千三十一條 遺物相續人中ニ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケン者又ハ失踪者アル時ハ遺囑ノ管理者其遺物ノ財産ニ封印ヲ為スノ手續ヲ為ス可シ

此場合ニ於テハ其管理者幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケン者又ハ失踪者ヲ除キテ遺囑者最近ノ親族タル遺物相續人ノ面前ニテ又ハ其相續人ヲ法ニ循ヒ呼出シ猶出席セサル上ニテ遺物財産ノ目錄ヲ記サシムルノ手續ヲ為ス可シ

其管理者ハ遺囑贈遺ノ契約ノ如ク執行ヲ為スニ付ナル金高ノアラサル時動産ヲ賣拂ハシムルヲ得可シ

其管理者ハ遺囑ノ諸事ヲ執行スルヲ監督シ

且其諸事ヲ行フニ付キ訴訟ノ生スル時ハ其
訴訟ニ管涉シ遺囑書ノ如ク執行ヲ可キコトヲ
論辨ス可レ

其管理者ハ遺囑者ノ死去シタルヨリ一年ノ
後ニ至リ其行フタル諸事ノ算計ヲ為ス可レ
第千三十二條 遺囑ノ管理者ノ權ハ其遺物相
續人ニ傳フルコトヲ得ス

第千三十三條 遺囑管理ノ任ヲ受ケシ者數人
アル時ハ其中ノ一人他ノ管理者ニ代リ遺囑
ノ諸事ヲ處置スルコトヲ得可ク又其數人ノ管

理者ハ其委托ヲ受ケタル動産ノ用法ヲ算計
スルニ付キ皆連帶シテ其責ニ任ス可レ但レ
遺囑者其管理者數人ノ職務ヲ分チ且ツ其各
人已ノ任ヲ得タル職務ノミヲ行フタル時ハ
格別ナリトス

第千三十四條 遺囑ノ管理者遺囑ノ財産ニ封
印ヲ為シ其財産ノ目錄ヲ記シ其行フタル諸
事ノ算計書ヲ出スノ費用及ヒ其他管理者ノ
職務ヲ為スニ付テノ費用ハ遺物ノ財産中ヨ
リ之ヲ償フ可レ

○第八款 遺囑贈遺ノ證書ヲ廢棄スル事及ヒ遺囑贈遺ノ證書ノ効ナキ事

第一千三十五條 凡ソ遺囑贈遺ノ證書ハ其後ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニ因リ又ハ遺囑者其意ヲ變更セシテ「ア」ノ面前ニテ記シタル公正ノ證書ニ因リ其全部又ハ一部ヲ廢スルコトヲ得可シ

第一千三十六條 後ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニ前ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ヲ廢棄スル

「イ」別段記セサル時ハ前ノ證書中ニテ後ノ證書ニ記スル條件ト並行ス可カラサル事又ハ齟齬シタル事ノミヲ廢棄ス可シ

第一千三十七條 後ノ遺囑贈遺ノ證書ニ據リテ贈遺ヲ受ク可キ者之ヲ受クルコト能ハサルニ因リ又ハ其贈遺ヲ受ク可キ者之ヲ受クルコトヲ肯セサルニ因リ後ノ遺囑贈遺ノ證書ノ効ナキ時ト雖モ其證書ニ從ヒ前ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ廢棄ス可シ

第一千三十八條 遺囑者遺囑ノ贈遺ト為ス可キ

「約シタル財産ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ
 賣渡シタル時ハ縱令其賣渡シノ時後ニ之ヲ
 買戻ス「得可キノ約定ヲ為シタル時又ハ
 之ヲ賣渡シテ他物ト交換シタル時ト雖モ其
 賣渡シタル財産ニ付テハ其遺囑贈遺ノ證書
 ヲ廢棄ス可シ但シ其賣拂ノ契約ノ効ナクシ
 テ賣拂人之ヲ己ニ取戻シタル時モ亦同一ナ
 リトス

第千三十九條 凡ソ遺囑贈遺ノ證書ハ其贈遺
 ヲ受ク可キ者遺囑者ヨリ前ニ死シタル時ハ

其効ナシトス

第千四十條 凡ソ未定ノ後事ヲ指示シタル約
 束ヲ以テ遺囑贈遺ノ證書ヲ記シ且遺囑者其
 後事ノ有無ニ從ヒ其贈遺ノ證書ノ如ク執行
 フト否トヲ決ス可キ時其贈遺ヲ受ク可キ者
 其後事ノ未タ生セサル以前ニ死去シタルニ
 於テハ其贈遺ノ證書ノ効ナカル可シ
 第千四十一條 前條ノ如ク後事ニ管スル約
 リト雖モ其後事必ス生ス可キ事ニシテ遺囑
 者ノ意ニテ唯其贈遺ノ證書ノ如ク執行フ

ヲ遅延スルノミナル時ハ其贈遺ヲ受ク可キ者其贈遺ノ證書ヲ承諾シタル時ヨリ直チニ其贈遺ヲ受ク可キノ權ヲ得若シ其約シタル後事ノ未タ生セサル時死去シタルニ於テハ其贈遺ヲ得ルノ權ヲ己ノ遺物相續人ニ傳フルニ妨ケナシトス

第千四十二條 遺囑ノ贈遺ト為シタル財産其遺囑者ノ生存中ニ全ク滅盡シタル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ
又遺囑贈遺ノ財産ヲ渡ス可キ遺物相續人其

贈遺ヲ受ク可キ者ニ之ヲ渡スヲ遅延セシ時ト雖モ其相續人ノ所為及ヒ過失ニ非スシテ其贈遺ノ財産滅盡シ其財産縱令ヒ既ニ其贈遺ヲ受ク可キ者ノ所有トナリタルトモ亦滅盡ス可キ場合ニ於テハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第千四十三條 遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者之ヲ受クルトヲ肯セス又ハ之ヲ受クルト能サル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第千四十四條 數人ニ連帶シテ遺囑ノ贈遺ヲ

為シタル時若シ其數人中其贈遺ヲ受ル_レヲ肯セス又ハ之ヲ受クル_レ能ハサル者アルニ於テハ其他ノ數人其者ノ部分ヲ已_レノ得可キ部分ニ加ヘテ所得ト為ス_レヲ得可シ

一通ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ為シ且其證書ニ贈遺ト為ス財産中各人ニ與_ル部分ヲ指定メサル時ハ之ヲ數人ニ連帶シテ為シタル遺囑ノ贈遺トリトス

第千四十五條 又遺囑者數人ニ一物ヲ贈與シ其各人ノ得可キ部分ヲ指定メタル時ト雖_レ

一通ノ證書ヲ以テ其遺囑ノ贈遺ヲ為シ且ツ其物ヲ失_フ時必ス之ヲ毀壞ス可キニ於テハ亦之ヲ數人ニ連帶シテ為シタル遺囑ノ贈遺ト看做ス可シ

第千四十六條 第九百五十四條ト第九百五十五條ノ第一及ヒ第二トニ循ヒ生存中ノ贈遺ヲ廢棄セント訴フルヲ許ス可キ原由アル時ハ亦遺囑ノ贈遺ヲ廢棄セント訴フル_レヲ得可シ

第千四十七條 若シ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者

遺囑者ノ生存中ノ譽望ヲ大ニ毀害シタル時
 ハ他人ヨリ其贈遺ヲ廢棄ス可キノ訴ヲ受ク
 可シ但シ其訴ハ其罪ヲ犯シタルヨリ一年内
 ニ之ヲ為ス可シ

○第六章 生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈
 遺ヲ為ス者其孫ノ為メナス所ノ約
 定又ハ其甥姪ノ為メナス所ノ約定

第千四十八條 父母ハ其隨意ニ贈遺ト為ス
 ヲ得可キ財産定分ノ全部又ハ一部ヲ生存中
 ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ノ證書ヲ以テ其子一

人又ハ數人ニ與ヘ後ニ其贈遺ヲ受ケタル子
 ノ死去スル時其贈遺ノ財産ヲ其子ノ生ミタ
 ル子及ヒ生ムトアル可キ子ニ傳フ可キノ約
 定ヲ為ストヲ得可シ

第千四十九條 子ナキ者ハ其隨意ニ為ス
 得可キ財産定分ノ全部又ハ一部ヲ生存中ノ
 贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ノ證書ヲ以テ其兄弟姉
 妹一人又ハ數人ニ與ヘ其兄弟姉妹ノ死去ス
 ル時其贈遺ノ財産ヲ其生ミタル子及ヒ生ム
 トアル可キ子ニ傳フ可キノ約定ヲ為ストヲ

得可シ

第一千五十條 前二條ニ記シタル贈遺ノ約定ハ
 年齢及ヒ男女ノ區別ナク贈遺ヲ受ケタル子
 ト贈遺ヲ受ケタル兄弟姉妹トノ生ミタル子
 及ヒ生ムコアル可キ子數人ノ為メ其贈遺ノ
 財産ヲ傳フ可キコトヲ定ムルニ非レハ其効ナ
 カル可シ

第一千五十一條 若レ前數條ニ記シタル場合ニ
 於テ贈遺ヲ受ケタル子又ハ兄弟姉妹ノ死去
 シタル時此等ノ者ノ現存ノ子ト既ニ死去シ

タル子ノ卑屬ノ親トアルニ於テハ子ハ自己
 ノ權ヲ以テ其贈遺ノ財産ヲ讓リ受ケ既ニ死
 去シタル子ノ卑屬ノ親ハ死シタル尊屬ノ親
 ニ代リ其贈遺ノ財産ヲ讓リ受ケ可シ

第一千五十二條 子及ヒ兄弟姉妹初度ノ生存中
 ノ贈遺ヲ受ケタル時其財産ヲ死後已ノ子ニ
 傳フ可キノ約定ナント雖モ更ニ再度生存中
 ノ贈遺ヲ受ケ又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル時
 初度ノ贈遺ノ財産ヲ死後已ノ子ニ傳フ可キ
 ノ約定ヲ承諾シタルニ於テハ其贈遺ヲ受ケ

タル者後ニ其二箇ノ贈遺ヲ分チテ其再度ノ贈遺ノ財産ヲ拋棄スルト雖モ初度ノ贈遺ノ財産ヲ己ノ隨意ニ為スヲ得ヌ又再度ノ贈遺ノ財産ヲ己ノ子ニ傳フ可キ事ヲ述フルト雖モ初度ノ贈遺ノ財産ヲ己ノ隨意ニ為スヲ得ヌ

第一千五十三條 己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル子又ハ兄弟姉妹其財産ヲ所有スル權ノ終リタル時ハ其權ノ終リタル原由ノ如何ナルヲ問ハス此等ノ者其

子ニ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ移ス可シ但シ己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者其財産所有ノ權ノ終ハラサル中預メ其子ノ為メ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ其拋棄ヲ為ス前ニ自己ニ物件ヲ貸シタル債主ノ權利ヲ害スルコトナカル可シ

第一千五十四條 己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者ノ婦ハ其嫁資ヲ取戻スニ付キ其夫ノ自由ナル財産不足ナル

時夫其子ニ傳フ可キ贈遺ノ財産ヲ以テ其嫁
資ノ償ヲ得ント訴フルヲ得可シ但シ婦其
訴ヲ為シ得可キ場合ハ此贈遺ヲ為シタル者
其訴ヲ為シ得可キ事ヲ別段預メ定メ置キタ
ル時ニ限ル可ク其他ノ時ハ其訴ヲ為スヲ
得ス

第一千五十五條 前數條ニ記シタル贈遺ヲ為ス
者ハ其贈遺ノ證書又ハ其後ニ記スル公正ノ
證書ヲ以テ其贈遺ノ約定ノ如ク執行フ可キ
トヲ監察スル管照者ヲ任ス可シ但シ其管照

者ハ第一篇第十卷 幼年後見 第二章第六款ニ
記載シタル原由アル時ノ外其任ヲ辭スル
ヲ得ス

第一千五十六條 贈遺者此管照者ヲ任セサル時
ハ己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ヲ贈
遺ヲ受ケタル者若シ又其者幼年ナル時ハ其
後見人贈遺者ノ死去セシ日ヨリ一月内ニ其
管照者ヲ任シ又其死去ノ後ニ同上ノ贈遺ノ
証書アルトヲ知リタル時ハ其日ヨリ一月内
ニ其管照者ヲ任ス可シ

第千五十七條 己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者前條ニ記セシ如ク管照者ヲ任セサル時ハ其贈遺ヲ受ケン權利ヲ失フ可シ但シ此場合ニ於テ其贈遺ヲ受ケン者ノ子丁年ナル時ハ其子ノ訴ニ因リ若シ其子ノ幼年ナル時又ハ治産ノ禁ヲ受ケン時ハ其後見人ノ訴ニ因リ又其子ノ丁年幼年又ハ治産ノ禁ヲ受ケタルヲ問ハス其子ノ親族ノ求ニ因リ又然ラサレハ遺物相續ヲ為ス地ノ下等裁判所ノプロキリウル、アンベリア

ルノ申立ニ因リ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ其子ニ移スヲ得可シ

第千五十八條 前數條ニ記セシ遺囑贈遺ヲ為シタル者ノ死去セシ後通常ノ法式ヲ以テ其遺囑贈遺ノ財産ノ目錄ヲ記ス可シ但シ其遺囑者ノ財産中ニテ別段指定メタル品物ノ遺囑ノ贈遺ナル時ハ其目錄ヲ記スルニ及ハス
○此目錄ニハ「ミウブル」及ヒ「エツヘー、モビリエール」ノ正當ナル評價ヲ附記ス可シ

第千五十九條 其目錄ハ贈遺ヲ受ケタル者此

篇ノ第一卷 遺物相續ノ卷第一 第七百九十五條ニ定メタル期限内ニ其贈遺ノ約定ノ如ク執行フテヲ監察スル管照者ノ面前ニテ之ヲ記スル手續ヲ為ス可シ但シ其目錄ヲ記スルニ付テノ費用ハ其贈遺ノ財産中ヨリ之ヲ差引ク可シ

第一千六十條 贈遺ヲ受ケタル者前條ニ記スル所ノ期限内ニ其目錄ヲ記スル手續ヲ為サ、ル時ハ其翌月中ニ其贈遺ノ管照者贈遺ヲ受ケタル者ノ面前又其贈遺ヲ受ケタル者幼年ナル時ハ其後見人ノ面前ニテ其手續ヲ為ス

可シ

第一千六十一條 若シ贈遺ヲ受ケタル者并ニ管照者前二條ニ記シタル如ク目錄ヲ記スル手續ヲ為サ、ル時ハ第一千五十七條ニ記シタル各人其贈遺ヲ受ケタル者又其者幼年ナル時ハ其後見人ト管照者トヲ呼出シ其面前ニテ其目錄ヲ記スル手續ヲ為ス可シ

第一千六十二條 贈遺ヲ受ケタル者ハ次ノ二條ニ記スル所ヲ除クノ外其贈遺ノ財産中ノ「ミウブル」及ヒ「エツヘー」モビリエールヲ定例ノ

如ク貼附ヲ為シタル上糶賣ニテ賣拂フ可シ
 第千六十三條 贈遺ノ契約書ニ品物ノ儘保存
 シ置ク可キヲ別段定メタル「ユウブル」ミ
 ヲウブラシ及ヒ其他ノ動産ハ其贈遺ヲ受ケ
 タル者之ヲ保チ置キ後ニ之ヲ其子ニ傳フル
 時ニ至リ其時ノ景狀ノ儘之ヲ傳フ可シ
 第千六十四條 土地ヲ耕スニ入用ナル獸類及
 ヒ器具ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ト為
 シタル土地中ニ包含セシ物ト看做シ己ノ子
 ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ受ケタル者

其獸類及ヒ器具ノ評價ヲ為シ置キ後其子ニ
 其評價ノ價ニ等シキ代金ヲ傳フ可シ

第千六十五條 己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以
 テ贈遺ヲ受ケタル者ハ目錄ヲ成就シタル日
 ヨリ六月内ニ現ニ其贈遺中ニアル金高及ヒ
 「ミウブル」又ハ「エツヘー」モヒリエールヲ賣拂
 フテ得タル所ノ金高並ニ贈遺中ニアル貸金
 証書ニ因リ現ニ受取リタル所ノ金高ヲ資益
 トナル可キ方法ニ用フ可シ
 若シ格別ノ道理アル時ハ其六月ノ期限ヲ更

ニ延ハスヲ得可シ

第一千六十六條 己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ受ケタル者ハ其贈遺ノ後人ヨリ取戻シタル貸金ノ証書贈遺中ニテニ因リ受取リタル所ノ金高ト年金ノ高トヲ受取リタル日ヨリ三月内ニ之ヲ資益トナル可キ方法ニ用フ可シ

第一千六十七條 贈遺ヲ為ス者前二條ニ記セシ所ノ金高ヲ用フ可キノ方法ヲ定メシ時ハ其定メタル方法ニ循テ之ヲ用フ可シ若シ其方

法ヲ定メサル時ハ不動産買入ノ為メ其金高ヲ用ヒ又ハ其金高ヲ人ニ貸與ヘテ其抵償ノ為メ他ノ債主ヨリ先ニ其借受人ノ不動産カタニルヲ質物トシテ得可キノ特權ヲ保有ス可シ

第一千六十八條 前數條ニ記載シタル所ノ金高ヲ用フル事ハ贈遺ノ管照者ノ立合ニテ之ヲ為ス可シ

第一千六十九條 贈遺ヲ受クル者ヲシテ其子ニ傳ヘシム可キノ約定ヲ以テ贈遺ノ為シタル事ハ之ヲ受ケタル者又ハ其贈遺ノ管照者之

ヲ公ケニ為ス可シ但シ不動産ニ付テハ其不動産所在ノ地ノ「イポテーク」官署ノ簿冊ニ其贈遺ノ証書ヲ登記シテ之ヲ公ケニ為シ又他ノ債主ヨリ先ニ借受人ノ不動産ヲ抵償トシテ得可キノ特權ヲ以テ人ニ貸與ヘタル金高ニ付テハ其不動産ヲ質ト為シタル旨ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル端ニ其特權ヲ記入シテ之ヲ公ケニ為ス可シ

第一千七十條 若シ前條ノ如ク官署ノ簿冊ニ登記ヒサル時ハ其不動産ノ贈遺ヲ受ケタル者

ノ債主又ハ其不動産ヲ買入レタル者其贈遺ヲ受ケタル者ノ子ニ對シ其登記ナキ旨ヲ訴ヘ已ノ權利ヲ保護スルヲ得可シ但シ其贈遺ヲ受ケタル者ノ子ハ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者タル時ト雖モ其登記ナキノ責ヲ已ニ引受ク可ク唯其贈遺ヲ受ケタル父母ト贈遺ノ管照者トニ對シ其損失ノ償ヲ得ニト訴フルヲ得可シ若シ又其父母ト管照者ト共ニ其損失ノ償ヲ為スヲ能ハサル時ト雖モ父母ノ債主又ハ其不動産買入人ノ權利ヲ害

ヲ公ケニ為ス可シ但シ不動産ニ付テハ其不動産所在ノ地ノ「イポテーク」官署ノ簿冊ニ其贈遺ノ証書ヲ登記シテ之ヲ公ケニ為シ又他ノ債主ヨリ先ニ借受人ノ不動産ヲ抵償トシテ得可キノ特權ヲ以テ人ニ貸與ヘタル金高ニ付テハ其不動産ヲ質ト為シタル旨ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル端ニ其特權ヲ記入シテ之ヲ公ケニ為ス可シ

第一千七十條 若シ前條ノ如ク官署ノ簿冊ニ登記セサル時ハ其不動産ノ贈遺ヲ受ケタル者

ノ債主又ハ其不動産ヲ買入レタル者其贈遺ヲ受ケタル者ノ子ニ對シ其登記ナキ旨ヲ訴ヘ已ノ權利ヲ保護スルヲ得可シ但シ其贈遺ヲ受ケタル者ノ子ハ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者タル時ト雖モ其登記ナキノ責ヲ已ニ引受ク可ク唯其贈遺ヲ受ケタル父母ト贈遺ノ管照者トニ對シ其損失ノ償ヲ得ニト訴フルヲ得可シ若シ又其父母ト管照者ト共ニ其損失ノ償ヲ為スヲ能ハサル時ト雖モ父母ノ債主又ハ其不動産買入人ノ權利ヲ害

ス可キ訴ヲ為スヲ得ス

第一千七十一條 第一千六十九條ノ如ク贈遺ノ証書ヲ官署ノ簿冊ニ登記セサル時ハ其贈遺ヲ受ケタル者ノ債主又ハ贈遺ノ不動産ヲ買入レタル者其登記ヲ見タル以外ノ法方ニテ其贈遺ノ約定ヲ知リタルト雖モ贈遺ヲ受ケタル者ノ子其責ヲ免ル、トヲ得ス

第一千七十二條 前ニ記シタル贈遺ヲ為ス者ヨリ他ノ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケル者並ニ其相續人及ヒ此等ノ者ヨリ更ニ又

贈遺ヲ受クル者又ハ其相續人ハ第一千六十九條ニ記シタル如ク官署ノ簿冊ニ登記レタルトナキヲ申述テ前ニ記シタル贈遺ヲ受ケタル者ノ子ノ權利ヲ害ス可キ訴ヲ為ス可カラス

第一千七十三條 贈遺ノ管照者動産ヲ賣拂フ事、金高ヲ用フル事、贈遺ノ証書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル事、他ノ債主ヨリ先ニ借入人ノ不動産ヲ抵償トシテ得可キ特權ヲ記入スル事ニ付キ前數條ニ定メタル規則ニ循ハサル時又

贈遺ヲ受ケタル者ヲシテ贈遺ノ約定ニ違ハ
 ス其贈遺ノ財産ヲ其子ニ傳ヘシム可キ處置
 ヲ為サ、ル時ハ其贈遺ヲ受ケタル者ノ子ノ
 為メ生スル損失ノ償ヲ自己ニ擔當ス可シ
 第一千七十四條 己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以
 テ贈遺ヲ受ケタル者縱令幼年ナル時ト雖モ
 此章ノ數條ニ定メタル規則ニ循ヒ其行フ可
 キ諸件ヲ行ハサルニ於テハ自カラ其責ニ任
 ス可ク後ニ其後見人ニ對シ其償ヲ得シトス
 ルノ訴ヲ為スコトヲ得可シ但シ其贈遺ヲ受ケ

タル幼者ハ後見人ヨリ其償ヲ得ルコト能ハサ
 ルノ時ト雖モ己ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

○第七章 父母又ハ其他ノ尊屬ノ親其
 財産ヲ卑屬ノ親ニ分派スル事

第一千七十五條 父母又ハ其他ノ尊屬ノ親ハ其
 子又ハ卑屬ノ親ニ其財産ノ分派ヲ為スコトヲ
 得可シ

第一千七十六條 其分派ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺
 囑ノ贈遺ノ為メ定メタル體裁ト規則トニ循
 ヒ生存中ノ証書又ハ遺囑ノ証書ヲ以テ之ヲ

為スルヲ得可シ

生存中ノ証書ヲ以テ為シタル分派ハ現在所有スル財産ノミヲ目的ト為ス可シ

第一千七十七條 若シ尊屬ノ親死去シタル時其遺留シタル財産中ニ嘗テ其分派中ニ入ラサル物件アル時ハ其物件ヲ法律定例ニ循テ分派ス可シ

第一千七十八條 若シ尊屬ノ親ノ死去シタル時生存スル子ト既ニ死去シタル子ノ卑屬ノ親トノ全員中ニ其財産ヲ分派シタルヲナキ時

ハ其分派ノ効全クナカル可シ○此場合ニ於テハ財産ノ一部ノ分派ヲ得サル子及ヒ卑屬ノ親ハ勿論其分派ヲ得タル子及ヒ卑屬ノ親ト雖モ法律定例ニ循ヒ更ニ改メテ分派ヲ為サント訴フルヲ得可シ

第一千七十九條 尊屬ノ親ノ為シタル分派ニ付キ其子及ヒ卑屬ノ親中ニテ其當然得可キ部分ノ四分一以上損失ヲ受クルヲアル時ハ其損失ヲ受クル子及ヒ卑屬ノ親其分派ヲ廢セント訴フルヲ得可シ又分派ノ方法ト分派

ヲ得ル者ノ中一人ニ別段餘分ヲ贈與シタル
トトニ因リ分派ヲ得ル者ノ中一人法律定例
ニ循ヒ當然得可キ部分ノ財産ヲ得ル時ハ他
ノ分派ヲ得ル者ヨリ其分派ヲ廢セント訴フ
ルトヲ得可シ

第一千八十條 前條ニ記シタル原由中ノ一ニ因
リ尊屬ノ親ノ為シタル分派ヲ廢セント訴フ
ル子ハ財産評價ノ費用ヲ預メ出シ置ク可シ
但シ其子其訴ヲ為スノ道理ヲキ証アル時ハ
其評價ノ費用ト裁判所ノ費用トヲ拂フ可シ

○第八章

婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦又ハ
其婚姻ニ因リ生ス可キ子ノ為メニ
ナス所ノ贈遺

第一千八十一條 現在所有スル財産ノ生存中ノ
贈遺ハ婚姻ノ契約書ヲ以テ夫婦又ハ其中一
方ニ與ヘタル時ト雖モ通常ノ生存中ノ贈遺
ニ付キ此卷ニ定メタル一般ノ規則ニ循ル可
シ

此生存中ノ贈遺ハ此卷ノ第六章ニ記載シタ
ル場合ノ外後ニ其夫婦ノ間ニ舉ルコトアル可

キ子ノ為メニ之ヲ為スヲ得ス 第九百六
條見合セ

第一千八十二條 夫婦トナラントスル者ノ父母

又ハ其他ノ尊屬ノ親及ヒ傍系ノ親又ハ親族

ニ非サル者ト雖モ其死スル時ニ遺留ス可

キ財産ノ全部又ハ一部ヲ婚姻ノ契約ヲ以テ

其夫婦ニ贈與シ若シ其贈遺ヲ受ク可キ夫婦

其贈遺ヲ為ス者ヨリ前ニ死去シタル時ハ其

夫婦ノ間ニ生シタル子ニ其贈遺ノ財産ヲ贈

與スルヲ得可シ 此條ノ場合ニ於テハ其贈
遺ヲ引受クル者ハ全ク負

債ヲモ引
受ク可シ

此贈遺ハ夫婦又ハ其中ノ一人ノミニ為シタ

ル時ト雖モ前ニ記スル所ノ如ク其贈遺ヲ受

ク可キ夫婦其贈遺ヲ為シタル者ヨリ前ニ死

去シタル時ハ常ニ其夫婦ノ子及ヒ卑屬ノ親

ニ其贈遺ヲ為シタルモノト看做ス可シ

第一千八十三條 前條ニ記シタル種類ノ贈遺ハ

其贈遺ヲ為ス者其贈遺ノ財産中ニテ極メテ

些少ノ部分ヲ除クノ外總テ其財産ヲ償ヲ得

スシテ更ニ他人ニ贈與スルヲ得サルニ付

テハ其贈遺ヲ廢ス可カラサルモノト為ス可

ト雖此償ヲ得テ其財産ヲ更ニ他人ニ賣拂
 七又ハ質物ト為ス類ノ事自由ナルニ付テハ
 其贈遺ヲ廢スルヲ得可キモノト為ス可シ
 第千八十四條 婚姻ノ契約ヲ以テ現在所有ス
 ル財産ト後ニ所有ト為スヲアル可キ財産ト
 ヲ贈遺ト為ス時ハ其贈遺ノ証書ニ其贈遺ヲ
 為ス時贈遺者ノ現ニ負フタル債ヲ記セシ書
 面ヲ添フ可シ○此場合ニ於テハ其贈遺ヲ受
 クル者贈遺ヲ為ス者ノ死去セシ時ニ至リ嘗
 テ其贈遺ノ時贈遺者ノ現在所有セシ財産ノ

ミヲ受ケ其贈遺者ノ後ニ所有ト為シタル財
 産ヲ拋棄スルヲ得可シ

第千八十五條 前條ニ記シタル如ク贈遺ヲ為
 ス者ノ現在所有スル財産ト後ニ所有ト為ス
 ヲアル可キ財産トノ贈遺ヲ為シタルト雖此
 其贈遺ノ証書ニ其贈遺者ノ負債ヲ記シタル
 書面ヲ添ヘサル時ハ此場合ハ猶第千八十二
 條ニ準シキ模様アリ
 其贈遺ヲ受クル者其贈遺ノ財産ヲ全ク收受
 シ然ラサレハ全ク之ヲ拋棄ス可シ○其財産
 ヲ收受シタル時ハ其贈遺ヲ受クル者贈遺ヲ

為ス者ノ死去スル時現存シタル財産ノミヲ
 得可ク且贈遺者ノ負債ヲ盡ク引受ク可シ
 第千八十六條 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦及ヒ其
 間ニ生ル可キ子ニ為シタル贈遺ハ贈遺ヲ為
 ス者ノ何人ナルヲ問ハズ贈遺ヲ受クル者ヲ
 シテ贈遺ヲ為ス者其負債ヲ區別ナク引受ケ
 シタル約定ヲ以テ之ヲ為ス₁ヲ得又ハ其他
 贈遺ヲ為ス者隨意ノ約定ヲ以テ之ヲ為ス₁
 ヲ得可シ但シ其贈遺ヲ受クル者ハ其贈遺ノ
 財産ヲ拋棄スルニ非レハ其約定ノ如ク執行

ヲ可シ○又其現在所有スル財産ヲ贈遺ト為
 シ其中ノ一物又ハ定數ノ金高ヲ贈遺者後ニ
 己ノ欲スル所ニ隨ヒ取扱フ可キノ約定ヲ婚
 姻ノ契約ニ定メ置キ其贈遺者其一物又ハ其
 金高ヲ別段其欲スル所ニ隨ヒ取扱フ₁ナク
 死去シタル時ハ之ヲ贈遺ノ財産中ニ包含セ
 シモノト看做シテ贈遺ヲ受ク可キ者又ハ其
 遺物相續人之ヲ所有ト為スヲ得可シ
 第千八十七條 婚姻ノ契約ヲ以テ為シタル贈
 遺ハ之ヲ得可キ者ノ別段之ヲ承諾セン₁ヲ

述へサルヲ以テ口實ト為シ之ヲ廢棄セント
訴フ可カラス

第一千八十八條 婚姻ノ為メ為シタル贈遺ハ其
婚姻ヲ為サル時其効ナカル可シ

第一千八十九條 第一千八十二條第一千八十四條第
千八十六條ニ記スル所ニ循ヒ夫婦中ノ一人
ニ為シタル贈遺ハ贈遺ヲ受ク可キ夫又ハ婦
並ニ其卑屬ノ親贈遺ヲ為シタル者ヨリ前ニ
死去シタル時其効ナカル可シ

第一千九十條 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦ニ為シタ

ル贈遺ノ財産其贈遺者ノ隨意ニ為スヲ得可
キ財産ノ定分ニ過ル時ハ其贈遺ヲ為ス者ノ
遺物相續ヲ始ムル時其贈遺ノ財産ヲ其定分
ニ減ス可シ

○第九章 婚姻ノ契約書ヲ以テ夫婦互

ニ為ス所ノ贈遺及ヒ婚姻ヲ結ヒタ
ル時間夫婦互ニ為ス所ノ贈遺

第一千九十一條 夫婦ハ婚姻ノ契約書ヲ以テ其
相當ト思量スル贈遺ヲ相互ニ為シ又ハ之ヲ
一方ヨリ一方ニ為ス事ヲ得可シ但シ其贈遺

ニ付テハ後ノ數條ニ記スル所ニ循フ可シ
 第一千九十二條 夫婦其現在所有スル財産ヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ互ニ生存中ノ贈遺ト為シ又ハ一方ヨリ一方ニ生存中ノ贈遺ト為ス時ハ其贈遺ヲ受ク可キ夫又ハ婦其贈遺ヲ為ス配偶者ヨリ後ニ生存シタルニ非レハ其贈遺ノ効ナカル可キ旨ノ約定ヲ以テ為シタル贈遺ト看做ス可カラズ且其贈遺ハ生存中ノ贈遺ニ付キ前ニ記シタル法則ニ循フ可シ但シ同上ノ約定ヲ以テ贈遺ヲ為ス旨ヲ別段婚姻

ノ契約書ニ記レタル時ハ格別ナリトス
 第一千九十三條 夫又ハ婦死去ノ時遺留スルアル可キ財産ヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ互ニ贈遺ト為シ第一千八十二條見合又ハ現在所有スル財産ト後ニ所有ト為スアル可キ財産トヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ互ニ贈遺ト為シ第一千八十四條見合又ハ此等ノ財産ヲ一方ヨリ一方ニ贈遺ト為シタル時ハ人ヨリ夫婦ニ為ス所ノ此種類ノ贈遺第一千八十二條見合ニ付キ前章ニ定メタル規則ニ循フ可シ然レ其贈遺ノ財産ハ贈遺ヲ受ク可

キ夫又ハ婦贈遺ヲ為シタル其配偶者ヨリ前ニ死シタル時ハ其婚姻ニ因リ生レタル子ニ其財産ヲ傳フ可カラス

第一千九十四條 若シ夫又ハ婦其死去スル時子及ヒ卑屬ノ親ヲ遺留セサルニ於テハ其隨意ニ為スヲ得可キ財産全部ノ所有ノ權ト法律ニ循ヒ遺物相續人尊屬ノ親ヲ云フノ為メ必ス遺シ置ク可キ財産ノ部分ノ入額所得ノ權トシ己ノ配偶者ニ贈與ス可キヲ婚姻ノ契約書ニ記シ又ハ婚姻ヲ結フ時間ニ約束スルヲ

得可シ

又夫或ハ婦子及ヒ卑屬ノ親ヲ遺留スルニ於テハ其配偶者ニ己ノ財産四分一ノ所有ノ權ト更ニ四分一ノ入額所得ノ權トヲ贈與シ又ハ己ノ財産ノ半ハノ入額所得ノ權ヲ贈與ス可キヲ約束スルヲ得可シ

第一千九十五條 幼者ハ婚姻ヲ結フニ付キ其許諾ヲ得可キ者父母等ヲ云フノ允許ト立會トヲ得サレハ婚姻ノ契約書ヲ以テ夫婦ノ間ニ互ニ贈遺ヲ為シ又ハ一方ヨリ一方ニ贈遺ヲ為ス

ヲ得ス但シ其允許ヲ得タル上ハ法律ニ循ヒ
 丁年ノ夫又ハ婦ヨリ其配偶者ニ贈與スル事
 ヲ許シタル諸件ヲ贈與スルヲ得可シ
 第一千九十六條 婚姻ヲ結ヒタル時間夫婦互ニ
 為シ又ハ一方ヨリ一方ニ為シタル贈遺ハ生
 存中ノ贈遺ト雖モ常ニ之ヲ廢棄スルヲ得
 可シ
 婦ハ夫ノ承諾又ハ裁判所ノ允許ヲ得スシテ
 其贈遺ヲ廢棄スルヲ得可シ
 此贈遺ハ子ノ生レタルヲ以テ廢棄ス可カ

ラス

第一千九十七條 夫婦ハ生存中ノ贈遺タルト遺
 囑ノ贈遺タルトヲ問ハス唯一通ノ証書ヲ以
 テ互ニ贈遺ヲ為ス可カラス
 第一千九十八條 夫又ハ婦前婚ノ嫡出ノ子數人
 アリテ更ニ再婚ヲ結ヒシ時ハ其前婚ノ嫡出
 ノ子中ニテ最モ少量ノ財産ヲ得可キ者ノ部
 分ニ等シキ財産ノミヲ其再婚ノ配偶者ニ贈
 與スルヲ得可シ又何レノ場合ニ於テモ其
 再婚ノ配偶者ニ贈與スルヲ得可キ部分ハ財

産ノ四分一ニ過ク可カラス

第一千九十九條 夫又ハ婦ハ如何ナル方法ヲ用

フルヲ問ハス前ニ記スル所ノ規則第一千九十九條及ヒ

第一千九十九條見合ニ循ヒ其配偶者ニ贈與スルヲ得

可キ財産ヨリ更ニ餘分ヲ贈遺ト為スヲ得

ス

偽テ名義ヲ替ヘ又ハ他人ノ介入ヲ以テ夫又

ハ婦其配偶者ニ為シタル贈遺ハ其効ナカル

可シ

第一千百條 夫又ハ婦其配偶者ノ前婚ノ子ニ為

シタル贈遺及ヒ夫又ハ婦其配偶者ニ遺物ヲ

讓ル可キ親族ニ為シタル贈遺ハ縱令其配偶

者其親族ヨリ後ニ生存セスト雖モ之ヲ他人

ノ介入ヲ以テ為シタル贈遺ト看做ス可シ

辻士革筆受

佛蘭西民法七終

佛蘭西民法

三九一

法律書

刑部

